

力のモーメントと角運動量

樋口さぶろお

龍谷大学理工学部数理情報学科

力学 L03(2010-04-28 Wed)

今日の目標

- ① ベクトルの外積って?(復習)
- ② 力のモーメントって?(復習)
- ③ 角運動量って?
- ④ 角運動量と力のモーメントの関係は?



<http://hig3.net>

Quiz L02 の略解 I

- ① $F(x) = -\frac{dU}{dx}(x) = -4x^3 + 16x = -4x(x+2)(x-2)$.
- ② $F(x) = 0$ となる点なので, $x = 0, \pm 2$.
- ③ 力学的エネルギー E , 速度を $v = \frac{dx}{dt}(t)$ として,

$$E = \frac{1}{2}mv^2 + U(x) = \frac{1}{2} \cdot 2 \cdot (-2)^2 + U(-2) = -12.$$

質点が運動できる範囲は, $\frac{1}{2}mv^2 = E - U(x) \geq 0$ を満たす必要がある
 ので, $-\sqrt{6} \leq x \leq -\sqrt{2}$ または $\sqrt{2} \leq x \leq \sqrt{6}$. しかし, $x = -2$ から出発
 するので, $x = -\sqrt{6}$ と $x = -\sqrt{2}$ の間の往復運動になる.

④

Quiz L02 の略解 II

5

外積 (ベクトル積)

物理数学 I, ベクトル解析, 高木 I p.126

2つの3次元ベクトル A, B に対して, 次の式で表わされるベクトル $C = A \times B$ のことを **外積** という. この記号 'x' は新しい記号. (実数のふつうの 'かける' とたまたま同じ文字).

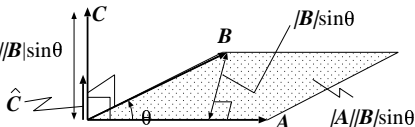


ただし, \hat{C} は, A と B の両方に垂直な単位ベクトル (つまり $|\hat{C}| = 1$) で, $\langle A, B, \hat{C} \rangle$ が右手系をなすようなもの.

別の言い方

$C \perp A, C \perp B$ で, C の向き $|A||B|\sin\theta$ は, A から B に回る右ねじが進む向き.

大きさは $|C| = |A||B|\sin\theta = A, B$ のはる平行四辺形の面積.



外積を含む計算

ふつうの数であるかのように分配, 展開, スカラー倍して計算してよい. ただし,

大注意



超注意



($\sin \theta = 0$ だから)

$$\text{計算例 } (\mathbf{A} + 2\mathbf{B}) \times \mathbf{A} = \mathbf{A} \times \mathbf{A} + 2\mathbf{B} \times \mathbf{A} = \mathbf{0} - 2\mathbf{A} \times \mathbf{B}$$

積の微分法

$$\frac{d}{dt}(\mathbf{A}(t) \times \mathbf{B}(t)) = \frac{d\mathbf{A}}{dt}(t) \times \mathbf{B}(t) + \mathbf{A}(t) \times \frac{d\mathbf{B}}{dt}(t)$$

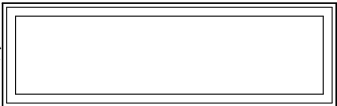
(次に出てくる) 成分で計算してチェックできる.

外積 $A \times B$ の成分表示

実際に計算するときは成分表示でやることも多い。

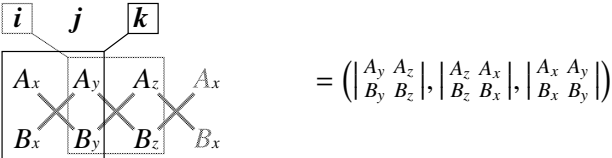
$A = (A_x, A_y, A_z), B = (B_x, B_y, B_z)$ のとき,

$$A \times B = (A_y B_z - A_z B_y, \quad A_z B_x - A_x B_z, \quad A_x B_y - A_y B_x).$$

x, y, z が  に入れ替わってることに注意。

$x \rightarrow y \rightarrow z \rightarrow x$.

覚え方 $A \times B =$



$$= (|A_y A_z|, |A_z A_x|, |A_x A_y|)$$

Example 1

$\mathbf{A} = \begin{pmatrix} 2 \\ 3 \\ 0 \end{pmatrix}, \mathbf{B} = \begin{pmatrix} -1 \\ -4 \\ +5 \end{pmatrix}$ に対して, 外積 $\mathbf{B} \times \mathbf{A}$ を計算しよう.

フレミングの左手の法則やローレンツ力は, 外積で簡単に書ける:
 $\mathbf{F} = \mathbf{I} \times \mathbf{B}, \mathbf{F} = q(\mathbf{E} + \mathbf{v} \times \mathbf{B}).$

やじろべえのつりあい

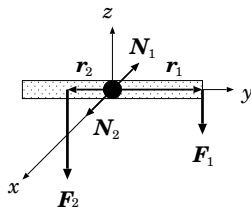
やじろべえって英語では balancing toy

右の図のような原点で支えられたやじろべえが回転しない(つりあいの状態にある)条件は,



“てこの原理”

じゃあ, 斜めに引っ張る場合は?



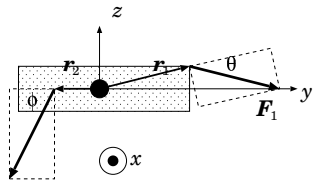
やじるべえいじめ

F_1 を, r_1 に平行, 垂直に分解して得られるベクトルを $F_{1\parallel}$, $F_{1\perp}$ とする.

垂直なベクトル $F_{1\perp}$, $F_{2\perp}$ がやじるべえの動きに効く. つりあいの条件は

$$|F_{1\perp}| : |F_{2\perp}| = |r_2| : |r_1|.$$

つまり



F_2

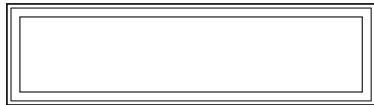
実は、これはベクトルの外積を使うと便利に書ける。
点 r に力 F がはたらいているとき、

(原点のまわりの) 力のモーメント

$$\mathbf{N} = \mathbf{r} \times \mathbf{F} \quad \text{外積}$$

これは、やじるべえを回転させようとするはたらきの大きさ (と向き) を表す。

n 個の点に力がはたらいているとき、つりあいの条件は、



の和がゼロになること: 上の $n = 2$ 個の力の

場合には、

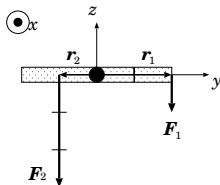
$$\mathbf{N} = \mathbf{r}_1 \times \mathbf{F}_1 + \mathbf{r}_2 \times \mathbf{F}_2 = \mathbf{0}.$$

ここで、外積の定義を使う。 i を x 軸方向の基本ベクトルとして、

$$\begin{aligned} \mathbf{0} &= |\mathbf{r}_1| |\mathbf{F}_1| (\sin \theta) (-i) + |\mathbf{r}_2| |\mathbf{F}_2| (\sin \phi) (+i) \\ &= (-|\mathbf{r}_1| |\mathbf{F}_1| \sin \theta + |\mathbf{r}_2| |\mathbf{F}_2| \sin \phi) i \quad \text{さっきのつりあいの式!} \end{aligned}$$

それじゃあどっちに回る？

$$\begin{aligned}
 \mathbf{N} &= \mathbf{r}_1 \times \mathbf{F}_1 + \mathbf{r}_2 \times \mathbf{F}_2 \\
 &= \begin{pmatrix} 0 \\ 2 \\ 0 \end{pmatrix} \times \begin{pmatrix} 0 \\ 0 \\ -1 \end{pmatrix} + \begin{pmatrix} 0 \\ -1 \\ 0 \end{pmatrix} \times \begin{pmatrix} 0 \\ 0 \\ -3 \end{pmatrix} \\
 &= \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \\ 0 \end{pmatrix} \\
 &\neq \mathbf{0}
 \end{aligned}$$

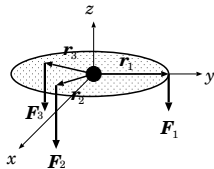


で、つりあっていないので回転する。でも、どっちに？

回転の向き

- 回転軸は \mathbf{N} に平行。
- 回転の向き (図で、時計回りまたは反時計回り) は、 \mathbf{N} 向きに進む の回る向き。

モビールはどっちに傾く？



立体的なやじるべえのときも同じ.

$N = 0$ ならつりあってる.

$N \neq 0$ なら,

- 回転軸は N に平行.
- 回転の向き (図で, 時計回りまたは反時計回り) は, N 向きに進

む



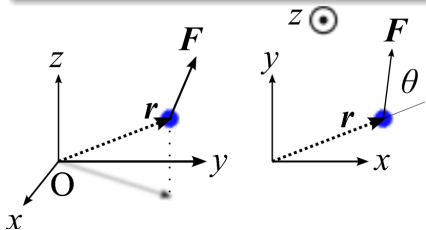
の回る向き.

質点の受ける力のモーメント

回転軸や板ややじるべえがなくても、空間内を運動する質点を受ける (原点 O のまわりの) **力のモーメント** または **トルク** として、次のベクトルを考えることができる。

質点の受ける力のモーメントの定義

$$\mathbf{N}(t) = \mathbf{r}(t) \times \mathbf{F}(t)$$



原点 O のまわりを回転させようとするはたらしの大きさ (と向き).
 大きさ: $|\mathbf{N}|$, 向き: \mathbf{N} に進む右ねじが回る向き.

スペースシャトルに地球のまわりを回転させようとする, みたいな.

運動量

物体の運動量

$$\mathbf{p}(t) = m \frac{d\mathbf{r}}{dt}(t) = \left(m \frac{dx}{dt}(t), m \frac{dy}{dt}(t), m \frac{dz}{dt}(t) \right)$$

. ここで t :時刻, m :質量, $\mathbf{r} = (x, y, z)$:物体の位置.

運動量

は

みたいなもの.

運動方程式 $m \frac{d^2\mathbf{r}}{dt^2}(t) = \mathbf{F}(t)$ を \mathbf{p} で書き直すと,

運動量で書いた運動方程式

$$\frac{d\mathbf{p}}{dt} = \mathbf{F}.$$

だって, $\frac{d\mathbf{p}}{dt} = \frac{d}{dt}(m \frac{d\mathbf{r}}{dt}) = m \frac{d^2\mathbf{r}}{dt^2}$.

運動量 (物体の進む勢い) の変化率は力に等しい

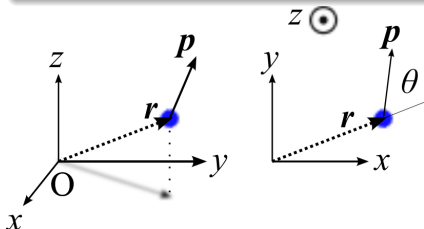
角運動量

回転軸や板ややじるべえがなくても、物体が(原点 O のまわりを)回転する勢いとして次のベクトルを考えることができる。

原点 O のまわりの角運動量

$$\mathbf{L}(t) = \mathbf{r}(t) \times \mathbf{p}(t).$$

$\mathbf{r}(t)$: 時刻 t における位置, $\mathbf{p}(t)$: 時刻 t における運動量



スペースシャトルが地球の(中心の)まわりを回る勢い, みたいなことって想像できるでしょ.

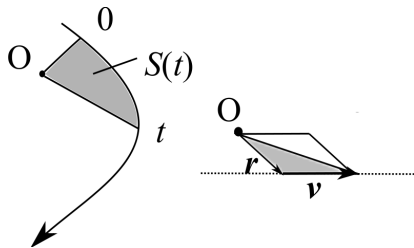
大きさ: $|\mathbf{p}|$, 向き: \mathbf{p} に進む右ねじが回る向き.

面積速度

面積速度

$$= \frac{dS}{dt}(t)$$

= 三角形の面積



Example 2 (角運動量)

次の場合に、物体の原点のまわりの角運動量を成分表示で求めよう。

- ① 時刻 t における位置が $\mathbf{r}(t) = (-3t^3, 5, 0)$ で与えられる、質量 2 の物体.
- ② 時刻 t における位置が $\mathbf{r}(t) = (-3t + 2, 5t - 3, 2t)$ で与えられる、質量 2 の物体.
- ③ 原点を中心として、半径 3、角速度 2 で xy 平面内を時計回りに等速円運動する質量 5 の物体.

角運動量の満たす微分方程式

角運動量の変化率

$$\frac{d\mathbf{L}}{dt}(t) = \mathbf{N}(t)$$

これは、運動方程式から導ける。実際、

$$\begin{aligned} \frac{d\mathbf{L}}{dt} &= \frac{d}{dt}(\mathbf{r} \times \mathbf{p}) \\ &= \frac{d\mathbf{r}}{dt} \times \mathbf{p} + \mathbf{r} \times \frac{d\mathbf{p}}{dt} \\ &= \mathbf{0} + \mathbf{r} \times \mathbf{F} \\ &= \mathbf{N}. \end{aligned}$$

- 1 から 2 行目へ: (外) 積の微分法

- 2 から 3 行目へ:

$$\text{と } \mathbf{p} = m \frac{d\mathbf{r}}{dt}$$

- 2 から 3 行目へ: 運動方程式

- 3 から 4 行目へ: 力のモーメントの定義

角運動量 (物体の回転する勢い) の変化率は力のモーメントに等しい。

まとめみたいな？

	直線	回転
勢い	運動量 $p = m \frac{dr}{dt}$	角運動量 $L = r \times p$
大きさ	$ p $	$ L $
向き	p	L に進む右ねじの回る向き
はたらき	力 F	力のモーメント $N = r \times F$
微分方程式	$\frac{dp}{dt} = F$	$\frac{dL}{dt} = N$

Quiz

質量 $m = 3$ の物体が、力のモーメント N をうけつつ運動している。時刻 t における物体の位置は $\mathbf{r}(t) = (3 \cos t, 2 \sin t, \sin t)$ で与えられる。

- ① 時刻 t における運動量 $\mathbf{p}(t)$ を求めよう。
- ② 時刻 t における原点 O のまわりの角運動量 $\mathbf{L}(t)$ を求めよう。
- ③ 時刻 t において物体が受ける原点 O のまわりの力のモーメント $\mathbf{N}(t)$ を求めよう。

教科書のお奨め問題

高木 I 例題 [6.4](p.129)

高木 I 演習問題 [4][5][8](p.137-139)

テキスト入荷!

高木, 力学 (II), 裳華房 (2001) より引用 後半で使うので買って置いてね。